



学校教育目標 「学び合い」 「個性」 「自立」

- | | |
|--|-----|
| (1) 生きるための基本的な生活習慣・学力を身につける生徒を育てます。 | 【知】 |
| (2) 自分のまわりの人とふれあい、お互いを大切にする心を育てます。 | 【徳】 |
| (3) 自他の生命を尊重し、健康でたくましい体を育てます。 | 【体】 |
| (4) 社会の一員として自覚をもち、自分の生き方を決められる生徒を育てます。 | 【公】 |
| (5) 体験を通して自分を豊かにし、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育てます。 | 【開】 |



「校外行事を終えて」

校長 井上菜穂子

梅雨の季節となりました。今日はカサを持つかどうか、毎朝家族と話したりしていますが、最近は晴雨兼用のものやかなり軽量のものがあり、まあカバンに入れておこうかな、と結局もつことが多い毎日です。しばらくはお天気とにらめっこする日々が続きますね。

各学年とも5月に予定どおり校外学習が実施でき、あたり前に行事を行っていた頃と違う特別な感慨があります。無事終わられてホッとする気持ちが、何倍も何倍も違いますね。喜びも大きいです。感染対策上、いろいろな制約もあって、もっと伸び伸びと食事や活動をさせてあげたかったけれど、よく協力して取り組んでくれたことに感謝しています。保護者の方からも、終わってからお礼を言われたりして、もしかしたらこんなことは初めてかもしれないです。

行事の後は生徒の笑顔が増え、和やかな空気が教室に廊下に流れている気がします。各学年や担任からのたよりを見せてもらいながら、さまざまなエピソードがあったことをさらに知り、職員室の先生たちからもまだまだ話題が尽きません。ふだんは見られない姿に触れて、個人の素顔や団体としての意識など、感じとることができました。皆さん自身も、これからはいろいろな経験をすることで、自分の中に、身長や記録のように目には見えないけど「心の成長」をきっと感じとることでしょう。

先日の朝会で、地域の方からお礼の連絡をいただいた生徒さんたちを表彰しました。道に迷ったお年寄りを家まで送ってあげたり、駅の近くで荷物を持ちましょう、と手を貸してあげたり、ということで感謝された件です。きっとその他にもさり気ない気遣いをしてくれた生徒さんはいらっしゃいます。田奈中生って素晴らしいですね、とも言われました。こういう報告は本当にありがたいことです。



中間テストの後はすぐ体育祭。今年は3年生の保護者の方のみの参観とさせていただきますが、中学生としての初めての参観となってしまうことを申し訳なく思っています。種目も精選して、なるべく短時間で行う予定です。感染対策と暑さ対策の両方を気遣いながらの行事となるので、工夫をしながら行っています。梅雨の間隙をぬって例年行っていますが、ますます空とにらめっこをし、ぜひ勝ちたいと思っています。

教職員の休職と着任について

小野 夏美 教諭（音楽）が5月24日より産休に入り、その代替として西山 千香子 教諭（音楽）が着任いたしました。また、職員室業務アシスタントとして宗安 由佳子さんが着任いたしましたのでお知らせいたします。

留守番電話の設定について

6月下旬より、勤務時間外（19時～翌朝7時）の留守番電話対応を試行することにいたしました。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、録音機能はございませんのでご承知おきください。休日の部活動の欠席連絡につきましては、活動時間前に留守電を一時解除する等して対応いたします。対応は部活動によって異なりますので、詳細は後日各顧問からご連絡いたします。

【留守番電話の設定時間】

【平日】 19時～翌朝7時 【休日（土・日・祝）及び学校閉庁日】 終日

令和4年5月 生徒活動報告

【男子ソフトテニス部】
『緑・港北地区大会（個人戦）予備戦』
5月29日（日）

会場：田奈中学校グランド

結果：

6位
7位
15位
16位



以上4ペアが、7月10日の市総体個人戦に進出

【男子バレーボール部】

『春季市大会』

5月3日（火） 会場：早瀬中学校

結果：第4位



●スクールカウンセラー●

和田啓子スクールカウンセラー
※6月のカウンセリングの予定

16日（木）23日（木）30日（木）

9時～16時

カウンセラー直通電話
045（981）8461

百人一首…あれこれ

今、私たちが「百人一首」と呼んでいるものは、鎌倉時代に藤原定家が、知人の別荘のふすま絵に載せる歌を選ぶように依頼されたものだと言われています。

その別荘が京都嵯峨野の小倉山にあったことから「小倉 百人一首」と呼ばれ、現在に至っています。

奈良時代以前の天智天皇から、鎌倉時代の順徳院までの百人から一首ずつ選ばれているので「百人一首」なのです。歌には番号がつけられていますが、概ね時代順になっています。

「万葉集」の歌人からは、大伴家持（かささぎの）・柿本人麻呂（あしびきの）・山部赤人（たごのうらに）などが選ばれています。

「古今和歌集」の時代からは、紀貫之（人はいさ）・小野小町（花の色は）・在原業平（ちはやぶる）など、有名な歌が多く選ばれています。

また、平安中期には、「源氏物語」の紫式部（巡りあひて）や、「枕草子」の清少納言（よをこめて）などの歌も選ばれています。

鎌倉時代に入り、「新古今和歌集」の時代は、藤原定家（来ぬ人を）・西行法師（嘆けとて）などが選ばれています。

現在は、上の句（5・7・5）と下の句（7・7）に分け、下の句の札をとる「かるたあそび」として、広い世代に親しまれています。

遊び方は、「散らし取り」「源平合戦（チーム戦）」「競技かるた（一対一）」などがあります。

皆さんも、日本の伝統文化である百人一首に親しみ、かるた遊びを楽しんでみてください。

（国語科 鈴木裕幸）